

鉢盛山 - 自主的に敗退 - '86.1.26

メンバー：L.西川克之、菅沼博

乗鞍岳の東側の山だということと、この冬型で2,500m近い標高のある山だということで、内心は淡い期待をいたして新宿駅からの夜行電車ででかけたのですが----。パウダーを滑るとかいった淡い期待は電車の中での夢の世界だけだったようで、野麦峠スキー場に立った時それらの期待ははかなくも瞬時に雪崩去ってしまった。

新島々駅から1日1本だけ野麦峠スキー場を通過するバスがあります。ということは帰りも1本だけなのです。スキー場はといいますと、積雪は極く少ないようで一部滑れない部分すらありました。一応時間まで登ってみようということになり、リフトを乗り継いで稜線まであがります。

シールを着けていざ出発。ハナからヤブ登りです。昔は割と良くヤブ登りやヤブ滑りもしましたが、そういう気憶は胸の金庫の奥にしまってしまいましたので、呼び戻すのが大変です。ここは仕方ないといった塩梅で、ただひたすら登ります。急斜面とコブをいくつか越え、小鉢盛山手前の2300メートル位の小ピークで時間切れ、長力切れとなりました。

シールを取って滑降です。ただ往路を食うだけなのですが、登った時よりも木が混んで見えるのです。もちろん連続回転が期待できる広い斜面はありません。ちょっと猫の額を見つければ回転を試みますが、すぐに転倒してしまいます。朝よりも雪質が悪くなってしまったようです。

ほんの小さな小ピークへ登るのが大変なのです。階段登りでやっと登り、また少し滑ってまた登るという単純作業のくりかえしなのです。それでも下りは早いものです。ゲレンデ手前の小ピークをラッセルしながら巻くともうゲレンデです。

雪の少ない硬いコブの斜面でも滑るは樂び、すぐにゲレンデ下に着いてしまいます。このゲレンデで滑る余裕は心身ともに無く、バス停のある寄合渡まで4キロ程歩くことにします。早く帰ろう。ノコノコ歩いているとペンションヘドミンゴが止まってくわ、便乗させて頂き、寄合渡まで下った。

ドミンゴはエライ。ペンションのご主人には感謝、感謝。

この山は僕の趣味には合っていないようで、もう行きません。やはり山スキーは雪と斜面が必要なのだと痛感再認識しました。(菅沼)